

研究所だより 1月号

くろしお

発行:黒潮町教育研究所

幡多郡黒潮町佐賀1092番地1(黒潮町教育委員会内)

Tel 0880-55-3190 Fax 0880-55-3850

Email: kuroshio-l@kochinet.ed.jp

URL: <http://www.kochinet.ed.jp/kuroshio-l/>

卒業時期を思わせる花が目につくようになりました。学年のしめくりに日々、充実した時間をお過ごしのことと思います。

今年はインフルエンザに怯えることも少なかったようですが、PM2.5の飛来への対処が必要なようです。



研修報告

「第7回黒潮町中学校数学担当者会」

平成26年2月7日(金)

今年度黒潮町では『一人一人の思考力・表現力をのばす』をテーマに、中学校数学科の授業づくりに関する研修を行っています。西部教育事務所より指導主事をお招きして、「学力テストの分析のポイント」「学力テストの活用方法」「一人一人の思考力・表現力をのばす授業研究(公開授業)」などを行ってきました。小学校教諭の私にとっては、小学校での授業が中学校にどうつながっていくのか、小学校での課題がそのまま中学校の課題となっていることなど、今後の指導に活かせる発見がたくさんあって大変勉強になっています。また、3人の先生方の熱心な取り組みにより、1月に行われた高知県学力定着状況調査では、高知県平均を上回る結果が出ました。

【本日の内容】

○平成25年度高知県学力定着状況調査の結果より・・・西部教育事務所 宮崎指導主事

・今年の傾向

☆平成25年度全国学テで正答率が低かった問題

☆これまでの学テで正答率が低かった問題



これまでに課題とされていたところが指導改善できているかを見る



《課題》

★数学用語と記号の理解

問題文の数学用語が理解できていなかったり、意味を取り違えていたりするので無解答誤答が多くなっているのではないか

★数と式の領域が弱い

★数と式では選択式も正答率が低い

○各校の答案分析

・正答率の低かった問題の解答類型を見て、生徒の理解度・今後の指導について検討

他校の傾向と比較することで、自分の指導の課題や生徒の理解の課題が見えてきます。解答類型から生徒の理解の状況も見えてきて、今後の指導の在り方を考えることができました。複数で分析できたことはとても意義のあることでした。

来年度に向けて...



来年度は黒潮町教育研究会 中学校部会に教科部会ができる予定です。部会の中で、学力テストの分析なども行うといいですね。



黒潮町力だめしテスト（小学校）

H25. 12月実施

2学期末の忙しい時期の実施で慌ただしかったことと思います。
遅くなりましたが、集計・分析が完了しましたので結果の一部を紹介します。
昨年度の反省から、今年度はとても丁寧に添削されている先生が多く、
集計を短時間で終わることができました。
各校の詳しい結果は、学力向上委員会で研究主任の先生にお渡ししています。
今年度のしめくくりの学習にご活用ください。

漢字

◆正答率の低い問題 Worst 3

【読み】

	1	2	3
1学年	七日(84.0%)	一日(86.4%)	八つ(87.7%)
2学年	十かい(36.9%)	川下(47.7%)	見学(49.2%)
3学年	期待・酒屋(55.4%)	休息・新緑(60.0%)	乗客(64.6%)
4学年	唱える(77.3%)	期待(84.1%)	印刷(85.2%)
5学年	寄付(57.1%)	構える(63.3%)	快い(67.3%)
6学年	穀物・快い(69.3%)	樹木(77.3%)	志す(86.4%)

【書き】

	1	2	3
1学年	入る(83.5%)	三日(88.6%)	九日・赤い・耳(89.9%)
2学年	親友(44.6%)	東京(50.8%)	小川(52.3%)
3学年	整列(35.4%)	商店(46.2%)	使用する(52.3%)
4学年	号令(36.4%)	試験(48.9%)	達成(52.3%)
5学年	清潔(36.7%)	提示(40.8%)	復興(43.9%)
6学年	変革(38.6%)	疑問(46.6%)	専門(48.9%)

昨年度、全学年で正答率の低かった漢字が今年も正答率が低かったです。正答率の低い漢字は、普段の生活の中で使うことが少ないもの、或いは間違えて覚えているものが多いと感じました。読書をする、新聞を読む、意味調べをする、また書くこと（日記、作文、ノート等）などを通して、漢字を使う機会を多くし、語彙を増やしていくことが大事であるとおもいました。

計算

◆正答率の低い問題 Worst 3

	1	2	3
1学年	□は10と8(88.9%)	10と7で□(92.6%)	2と□で7、9+4、7-3、10-8 13-9、14-8、(96.3%)
2学年	102-65(78.5%)	146-89(83.5%)	85-26、70-34、7×4 (87.3%)
3学年	4-1.3(63.1%)	7.3+4.3(81.5%)	543-276、875×7 (83.1%)
4学年	286×67(60.2%)	4-1.3(62.5%)	4と4/8-1と5/8、8-3.54 (73.9%)
5学年	340÷7.2(46.9%)	49÷2.3(46.7%)	24.3÷7(62.2%)
6学年	49÷2.3(51.1%)	24.3÷7(51.2%)	5/9÷2と1/7(71.6%)

学年ごとの傾向は昨年と変わっていません。同じ問題が正答率が低かったようです。低学年のたし算ひき算のくり上がり、くり下がりをつまずきました、3人の数学担当の先生方の熱心な取り組みにより、は、中学年からのかけ算わり算にも大きく影響しているようです。高学年になると小数の問題に誤答が多く見られました。小数点の位置の間違いも多かったのですが、概数で答える問題、あまりを出す問題などの読み取りが十分でなく、問題の理解、読み方にも課題があることが見えてきました。

